

3月は3%減の178万TEU

■アジア発米国向け、海事センター調査

日本海事センターが28日に発表した、今年3月のアジア18カ国・地域発米国向け東航コンテナ荷動き量（速報値）は、前年同月比3.3%減の178万4900TEUとなった。7カ月連続でマイナスとなった。物量の多い中国出しが引き続き減少したほか、日本や韓国、台湾も落ち込んだ。一方で、ベトナムやタイは堅調に推移している。1～3月累計の荷動き量は前年同期比5.4%減の529万705TEUとなった。

3月の積み地国・地域別コンテナ輸送量は表のとおり。日本海事センターがPIERSのデータをもとに毎月作成しているもので、速報値ベースでの発表のため後日修正が加わる場合がある。日本海事センターによると、昨年は米国の関税引き上げ前の前倒し出荷があり、コンテナ荷動きが好調だったため、今年は反動で前年と比べて減少している。

国別では中国出しが9.0%減の82万1474TEUとなり、11カ月連続の減少となった。日本出しも10.5%減の5万7806TEUと大きく減った。一方でアセアン出しは13.3%増の60万1647TEUと好調だった。物量の多いベトナム出しが15.6%増の30万4612TEU、タイ出しが9.4%増の12万3762TEUと増加した。南アジア出しは17.3%減の12万8840TEUと引き続き落ち込んだ。

主力輸出国となるインド出しが20.2%減の9万7150TEUと落ち込んだことが影響した。

品目別では、家具・寝具などが4.7%増の32万3414TEU、機械類が5.9%減の19万3377TEU、プラスチックおよびその製品が7.0%増の17万1530TEU、繊維類およびその製品が7.3%減の14万255TEU、電気機器・AV機器などが11.9%減の11万8022TEUだった。自動車部品などは6.9%減の9万1255TEU、鉄鋼製品は7.5%減の8万4514TEUとなった。

3月の米国内地域別荷動きの構成比は、西岸向けが47.8%（2月は54.0%）、東岸向けが38.5%（同33.8%）、ガルフ向けが8.5%（同7.8%）、その他が5.1%（同4.4%）

2026年3月のアジア発米国向け国・地域別荷動き

	3月		1～3月累計	
	荷動き(TEU)	前年同月比(%)	荷動き(TEU)	前年同月比(%)
18カ国・地域合計	1,784,990	▲3.3	5,290,705	▲5.4
日本	57,806	▲10.5	155,982	▲5.1
韓国	119,143	▲5.8	308,624	▲8.3
台湾	52,474	▲14.1	151,994	▲10.8
中国+香港	825,077	▲9.0	2,562,619	▲15.3
（中国）	821,474	▲9.0	2,551,159	▲15.2
（香港）	3,604	▲20.9	11,460	▲21.3
マカオ	2	▲87.9	8	▲89.0
アセアン計	601,647	13.3	1,733,820	17.1
（シンガポール）	12,048	▲8.2	32,692	▲9.7
（フィリピン）	12,396	▲10.6	32,927	▲5.5
（マレーシア）	50,619	12.0	135,905	10.1
（インドネシア）	58,099	4.9	168,960	12.1
（タイ）	123,762	9.4	345,849	21.7
（ベトナム）	304,612	15.6	907,163	16.6
（カンボジア）	39,082	52.1	107,458	51.8
（ミャンマー）	1,030	▲11.9	2,864	▲2.2
南アジア計	128,840	▲17.3	377,658	▲9.7
（スリランカ）	7,457	3.1	20,910	6.2
（バングラデシュ）	12,494	▲4.2	38,404	4.4
（パキスタン）	11,740	▲15.0	34,163	▲6.2
（インド）	97,150	▲20.2	284,182	▲12.7

となった。2月と比べて東岸・ガルフ向けのシェアが上昇している。

日本海事センターがドゥルーリーのデータに基づいて発表したアジア発米国向けの3月のコンテナ運賃水準は、上海発ロサンゼルス向けが前年同月比12.0%減の2642ドル/FEU、上海発ニューヨーク向けが18.0%減の3370ドル/FEUとなった。横浜発ロサンゼルス向けは16.3%減の3788ドル/FEU、横浜発ニューヨーク向けは6.0%増の5679ドル/FEUとなった。いずれも2月と比べて運賃水準が上昇している。